

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 6月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2774500991		
法人名	有限会社 エフ・エフ産業		
事業所名	グループホーム 桂苑		
所在地	泉佐野市羽倉崎1丁目1番4号 072 ( 465 ) 9000		
評価機関名	NPO法人エイジコンサーン・ジャパン		
所在地	大阪市住之江区南港北2丁目1 - 10 ATC ITM棟 9階		
訪問調査日	6/13/2007	評価確定日	7/9/2007

## 【情報提供票より】( 2007年5月8日事業所記入)

## ( 1 ) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤 14人, 非常勤 8人, 常勤換算	19.1 人

## ( 2 ) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	3 階建ての	2 階部分

## ( 3 ) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有( 円 ) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有:2年未満 / 無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	480 円
	夕食	400 円	おやつ	昼食代含 円
	または1日当たり 円			

## ( 4 ) 利用者の概要( 6月13日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	17 名
要介護 1	4名	要介護 2	6名	
要介護 3	4名	要介護 4	4名	
要介護 5		要支援 2		
年齢	平均 82 歳	最低	63 歳	最高 93 歳

## ( 5 ) 協力医療機関

協力医療機関名	羽原病院・医療法人清真会・ヒグチ歯科
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

1. 当事業所は病院の関連施設であり医療連携が取れている。特に長期入院にならない限り終末まで生活の支援を受けられることから入居者はもとより家族は安心できる。
2. 入居者の表情は穏やかで自分の家庭で過ごしているように見受けられた。
3. グループホームの玄関は駐車場の真ん中を通り抜けた奥にあり、車を利用する際は便利かもしれないが徒歩での来訪者・入居者の出入りには危険が伴う。少し迂回することになってグループホームに入る通路を確保し、公道からも分かりやすく明示する必要がある。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価では運営理念について特に指摘されていない。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	運営推進会議でも外部評価のことを積極的に取り上げ、外部評価を事業所の質の向上に活かすよう取り組んでいる。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	薬の服用間違いについて原因・結果など運営推進会議で話して検討しており、広くみんなの知識や意見を求めその後の運営に活かしている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	当施設に入居時は歩行困難であった入居者がその後かなり自由な歩行が可能まで回復している。これは1例であるが入居者本人、家族には大きな希望を、職員には喜びと自信を与えるものである。家族の不満などは特に出していない。今後ともどんなことでも話してもらえる関係づくりを期待する。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域との結びつきが出来る、入居者が散歩・買い物時などに地域の人々から声をかけてもらったり、万一の緊急避難の際に援助を受けることができるなどより親密な関係への発展が期待出来る。地域との関係の一層の発展をどうして築いてゆけるか、施設も現在交流の方法など検討しているので今後に期待したい。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は独自のものを作っている。		理念は事務所と玄関に掲げられている。しかし見過ごすこともあるので階段の踊り場等の目に付くところに掲げることを望む。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念として掲げている言葉を毎朝申し送り時に唱和している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	アクシデントもあり地域の協力を得たことで地域との積極的な交流を図ろうとしている。		施設では年に一度夏祭りを開催し、近所からも参加がある。保育園のお遊戯の披露などの交流も進んでいる。今後も交流を進める計画があるとのことで、さらなる進展を期待する。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価での〔気づき〕を運営に生かすことを考えている。		運営推進会議などで外部評価の結果についても話し合いをされていることから評価を生かす姿勢はうかがわれる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、入居者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議の意見を即活用している。</p>		<p>運営推進会議の議事録は市の担当部署に提出。会議の詳細は綴じて家族・来訪者がいつでも見られるように整えている。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に市の職員にも参加してもらい連絡を取る関係にはなっている。</p>		<p>市から近隣の町の方の入居依頼の打診などもあり連携はある程度取れている。</p>
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での入居者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月1回書面で家族に身体状況、受診内容、生活状況、認知症の症状など報告。家族来苑時に個人金銭ノートの確認、押印をしてもらっている。</p>		<p>「えふ・えふだより」を毎月1回出して家族に送って報告している。お金の管理（自分で使える）が出来る入居者には見守りながら入居者個人に管理をさせている。個人金銭ノートの確認なども出来ている。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>投書箱などの設置、日常の話の中で汲み取り、反映させている。</p>		<p>特に家族からの不満も無くほぼ満足されているように思われるが、家族が気軽に相談出来る雰囲気づくりにこれからも努めていただきたい。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、入居者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の移動が入居者に負担が大きいとも考えられるが、新しい職員に心のうちを開く入居者もいるのでどちらとも言えない。</p>		<p>高齢者の方はお世話いただく職員が急に変わると動揺したり、家族も入居者が心からなじんだ職員がいなくなると心配する。移動（退職を含め）のあるときは職員本人からさりげなく入居者・家族に告げてもらっているとのことである。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	府社協などが開催する社外研修には順に参加し、その講習会の報告内容をレポートにまとめ、発表の機会を設けている		職員は介護技術のレベルアップに意欲的であり、研修も順番に受けている。講義の内容を他の職員に発表し、そのレジメは全員にコピーを配り、事務所でいつでも見られるように綴じている。
11	20	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に1回近隣のグループホームと交互研修を行っている。		他のグループホームの交流会・研修会に参加したことは本当に勉強になったとのこと。研修の資料は綴じて保存、いつでも参考に来るようにしている。
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の入居者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所を経験して入所する入居者もいる。		体験入所をしてもらっているのでさほどの動揺・混乱は見られなかった。環境の変化が症状を悪化させることが無いようこれからも努めていただきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	話題の中心に入居者がいるように努めている。料理を一緒に作ったり、テレビドラマを見て共感しあったりしている。時折母のような視点で意見を下さる入居者もいる。		午後のひとは職員も一緒にくつろぐ時間が有るということでは有るが、リハビリなどもあり忙しいように見受けられた。することがあるという充実に繋がっていると考えられる。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	常にコミュニケーションを取り入居者の方々が何を望んでいるか読み取っている。外出レクリエーション・散歩・入浴介助・トイレ介助などさまざまな日常生活内で入居者の思いを把握している。		それぞれの入居者の思いを受け入れて合わせるようにしているように見受けられた。常にもっと出来ないかとの気持ちも忘れないで入居者に寄り添っていただきたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる入居者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	3ヶ月に1度ケアカンファレンスを開き入居者・家族の希望、スタッフの課題を討議して現状で何が一番大切であるかを話し合っって介護計画を作成している。		3ヶ月に1度の計介護計画見直しだけでなく、入居者の変化に合わせた見直しは随時して家族への報告をしている。
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	症状の進行が見られた時は再アセスメントを行い現状に即した介護計画を立て変化を家族にも説明して新しい介護計画書を作成する。		入居者の体調変化には隣接する母体の病院の他、かかりつけ医院との連携を取り、家族にも連絡をして対応している。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	グループホームの特性を活かし1対1での外出、買い物。室内レクリエーション、ボランティア等のレクリエーションも取り入れ社会参加を促しているが、強要しないで支援している。		食事の買い物、散歩は毎日のように何人かは出かけている。月に1回はマイクロバスで外出をしている。その時はマンツーマンで出かけている。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>内科・外科・歯科の定期往診を月に2～4回してもらっている。その他、今村眼科・白井病院などを受診し内容は記録をとり家族にも連絡している。</p>		<p>経営母体の病院、かかりつけ医院、眼科、歯科との連携を取って本人の変化は記録し家族にも報告、職員一同連携をとっている。</p>
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>認知症、アルツハイマー、下肢筋力低下は進んでいる。進行状況を家族へ連絡、スタッフ・医師との連携を取り、カンファレンスを開き、情報を共有し対応している。</p>		<p>入居者は徐々に重度化することは歴然である。重度化に対応する病院、医院、家族との連携は取れている。住居部分は2階にあり、玄関から居室部分へは階段とリフト1機のみである。今後入居者の重度化に備えた対応を検討されることを望む。</p>
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>サマリーで得た情報、介護記録など個人情報が入居者の前で話したり、外部に出ないように注意し、確保している。入居者に対して人生の先輩として敬意を表している。</p>		<p>入居者個人を尊重すること。プライバシーの保護には努めている。</p>
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>グループホームの一日のリズムはありますが、(入居者)本人の決定を重視し、次に苑のリズムを考えて対処している。「今はこれをする時間」と強要するのではなくコミュニケーションをとり支援している。</p>		<p>入居者の表情は明るく楽しく生活しているように見受けられ、特に苑の都合を強要はしているようには見受けられない。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、配膳、食器洗いなどを職員と一緒にやっている。手作りおやつなども。		食事中も職員と話しながら食べている入居者もいる。食事の支度・後片付けも何人かは一緒にしている。評価当日の昼食はほとんどの入居者が残さなかった。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の要望〔入浴の順番・お湯加減など〕に添った入浴を支援している。		入浴日は火曜・木曜・土曜日である。入浴日以外はシャワー浴・足浴をしている。入浴嫌いの入居者にはその要望に応じていつでも入浴してもらうようにしている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの役割について、全員の入居者には支援できていない。個々の趣味や楽しみごとについては、手芸ボランティア・小物づくり散歩などを毎日ではないが行っている。		毎日の生活の中に張り合いの有る時間が出来るように何をすればいいか、スタッフとともに考え今後も支援をされることを望む。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ADLを考慮して、個々の入居者にあつた距離内を外出のコースとしている。植物鑑賞を好まれる入居者には、季節ごとの花が鑑賞できるコースも取り入れている。畑で野菜の世話(水遣り・草引き・収穫)もしている。。		近くの畑での作業などもある、散歩などホーム内で閉じこもらない支援も今後とも続けてゆかれることを望む。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室、各ユニットは施錠はされていない。リビングから外は階段であるため施錠されている。		ホームが2階にあるため、階段前のみ危険回避の為に施錠しているが、建物の構造上やもう得ないと思われる。各ユニットは開放されており、リビングホールは自由に出入りできる。階段前の扉の施錠については今後検討していただきたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず入居者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	職員は講習会や勉強会に積極的に参加し知識を習得している。入居者とも防災訓練をしている。		火災を想定して避難訓練をしている。ホーム内の訓練だけでなく、地域の人からどのような協力や援助を得られるか少しずつでも具体的にされることを望む。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	専門家が作った栄養的に問題ない献立を提供している。高齢者にとっては量が多いので体重増加傾向が見受けられる。糖尿病の入居者には食事の量を調節している。水分の補給に関しては不足しないよう水分摂取を促している。		食事のメニューは専門家が作っている。季節感のある献立を入居者の意向も入れて時々取り入れている。水分の補給は壁に張った紙にその都度記入して水分不足にならない工夫もしている。カロリー - の取りすぎにならない配慮を期待する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、入居者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	家庭的雰囲気を考慮しフローア入り口には季節の花をいけたり、ホールには四季折々の飾り付けをしている。		リビングは2ユニットで1箇所である。机・椅子は会議室のような硬さを感じる。ソファも4人掛けが1台あるのみなので、もっと寛げておしゃべりできる空間にすると皆集まってくるのでは。リビングに誰も出てきていませんでした。
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	今まで使い慣れた調度品を置き華族の写真などを貼ったりしている。身体状況に応じてポータブルトイレも置いている部屋もあった。		居室の入り口は皆思い思いの暖簾を掛けて開放された部屋が多かった。快適な居室になっていると見受けられた。

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。